

雜 報

人 事

岡山醫科大學助教授 武田俊光
(九月二十日)
 本俸九級俸下賜
 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 杉山九一
(九月三十日)
 陞叙高等官四等
 臺灣總督府醫院醫官 花室憲章
 東京、京都、大阪ノ各府下へ出張ヲ命ス
(九月十四日)
 岡山醫科大學助教授 武田俊光
 陞叙高等官六等 (十月一日)
 朝鮮道立醫院醫官 石原貫一
 慶尙北道立大邱醫院長事務取扱ヲ命ス (九月七日)
 叙正六位 從六位勳四等 平野林
 叙從六位 正七位 牧野誠
(五月十五日)
 岡山醫科大學助教授 小田大吉
 職務俸金六百圓下賜 (十月十九日)
 陸軍一等軍醫從六位勳六等 寺坂幸太郎
 陸軍二等軍醫從七位勳七等 安井雅一
 陸軍二等軍醫從七位勳七等 三宅川治三郎
 陸軍三等軍醫正八位 田中公明
 陸軍三等軍醫正八位 三藤香吉
 陸軍三等軍醫正八位 田村宇一

陸軍三等軍醫正八位 服部堯佑
 衛生技師從六位 永井政忠
 陸軍三等軍醫正八位 山本申三
 陸軍二等軍醫正八位勳六等 岡田長一
 陸軍二等軍醫正七位勳六等 山根健二郎
 陸軍三等軍醫正八位勳六等 土佐兼次郎
 陸軍三等軍醫正八位 中島龍一
 陸軍三等軍醫正從五位勳六等 堤元齡
 從五位勳五等 秦佐八郎
 正六位 井上誠夫
 文部省學校衛生官正六位 大西永次郎
 東京帝國大學教授 從四位勳三等 島蘭順次郎
 陸軍二等軍醫正從五位勳三等 清水桂次郎
 海軍軍醫大佐正五位勳三等 三井圭造
 金澤醫科大學助教授正七位 松本武一郎
 陸軍三等軍醫正八位 赤木謙吾
 陸軍三等軍醫正八位 浦上正直
 北海道帝國大學教授從五位 西川義英
 陸軍三等軍醫從七位 大熊泰治
 正六位勳六等 野上尙志
 昭和三年勅令第百八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル (三年十一月十六日)

- 島蘭順次郎君 本年2月以來交換教授として獨逸の各大學に講演中の東京帝國大學教授の同君は講演も殆ど終了し且岳父病氣の容態も氣遣はれるを以て去9日獨逸出發西伯利亞經由にて歸朝せらるる苦なり
- 片平年秋君 は先般より大阪市住吉區天王寺町大阪鐵道病院産婦人科に勤務せられたり
- 加藤喜雄君 今般岡山醫科大學に於て學位を得られたる同君は東京府下寺島町大字大畑に於て開業せらる

◎學位授與 小橋政香, 村上鼎, 大畑豊, 早川政俊, 加藤喜雄, 須之内權三, 金光康生, 田丸要親, 岡元一, 森川尙の十君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが小橋, 村上, 大畑三君の論文は7月8日の教授會を通過し8月6日, 早川, 加藤, 須之内三君の論文は9月16日の教授會を通過し10月15日, 金光, 田丸, 岡, 森川四君の論文は9月30日の教授會を通過し10月22日何れも醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

小橋 政香 君 の 分

主 論 文

「ラノリン」飼養家兔ニ於ケル實驗的眠乾燥症ニ就テ (本誌第41年第8號ニ發表)

1. 種々ノ病變特ニ眼球内ニ出現スル所謂脂肪顆粒細胞ノ由來ニ就テノ實驗的研究 (本誌第41年第9號ニ發表)
2. 實驗的ニ惹起セシメタル所謂角膜脂肪變性症ニ就テ (本誌第41年第7號ニ發表)
3. 「ラノリン」飼養家兔ニ於ケル輪精管結紮ノ影響ニ就テ (本誌第41年第5號ニ發表)
4. 種々ノ脂肪質及ビ類脂肪質飼養ニ因スル家兔血糖ノ變化竝ニ糖尿ニ就テ (第1. 「ラノリン」飼養家兔ニ就テ) (本誌第41年第6號ニ發表)

村 上 鼎 君 の 分

主 論 文

膽汁酸「アドレナリン」ニ對スル拮抗作用ニ就キテ

- 其1 同上 第1報告 (生化學雜誌第9卷第1號ニ發表)
- 其2 同上 第2報告 (本誌第40年第4號ニ發表)

參 考 論 文

1. 蜜蜂毒ノ研究 (第1報告) (本誌第40年第4號ニ發表)
2. 同 上 (第2報告) (本誌第40年第4號ニ發表)
3. 膽汁酸ノ生成ニ就キテ
「ビタミン」A 缺乏症ニ於ケル膽汁酸ノ排泄ニ就テ (生化學雜誌第9卷第1號ニ發表)
4. 敗血症ヲ起セル肥大雙球菌様雙球菌ニ就テ (内田, 村上共著) (中外醫事新報第992號ニ發表)
5. 腸「チフス」ノ經過中肋膜腔液ニ「チフス」菌ヲ證明セル1例 (藝備醫事第356號ニ發表)
6. 先天性大胸筋缺損ノ2例 (東京醫事新誌第2486號ニ發表)

大 畑 豊 君 の 分

主 論 文

鳥類視丘圓形核ヨリ發生スル神經纖維ニ就テ (岡山醫科大學業府第1卷第1號ニ發表)

參 考 論 文

1. 鳥類遠心性線狀體路知見補遺 第1報 (本誌第40年第10號ニ發表)

2. 鳥類遠心性線狀體路知見補遺 第2報 (本誌第41年第6號=發表)
3. 鳥類ノ赤核並ニモナコ-氏束ニ就テ (大畑豊, 桑原弼共著) (本誌第453號=發表)
4. 鳥類ノ大胸中隔纖維束ニ就テ (本誌第40年第8號=發表)
5. 鳥類視丘前後ノ連結部殊ニ乳嘴體ニ就テ (本誌第41年第1號=發表)
6. 鳥類ニ體ト赤核トノ連結ニ就テ (本誌第41年第7號=發表)

早川政俊君の分

主 論 文

上皮様組織球(濱崎)ニ就テ

- 其1 肋膜上皮様組織球ノ研究 (岡山醫科大學歐文業府第1卷第2號=發表)
- 其2 肺胞壁立上皮様細胞ノ研究 (同上)

參考論文

1. 諸種細菌毒素注入ニヨル家兎肝臟ノ組織學的變化ニ就テ (早川政俊, 横尾秋夫共著) (本誌第440號=發表)
2. 脾臟剔出ノ大網乳斑ニ及ボス影響 (早川政俊, 濱崎幸雄共著) (本誌第39年第9號=發表セリ)
3. 剔脾家鼠肝臟ニ於ケル所謂脾様組織ニ關スル知見補遺 (早川政俊, 濱崎幸雄共著) (本誌第40年第2號=發表セリ)
4. 犬ノ大網ニ見出サレタル脾様組織ニ就テ (早川政俊, 吉田智一共著) (本誌第40年第6號=發表セリ)
5. アヂソン氏病ノ病理所見ニ就テ (本誌第41年第6號=發表)

加藤喜雄君の分

主 論 文

心筋纖維ニ關スル實驗的研究

- 其1 心筋纖維ノ間挿部特ニ其意義ニ就テ (「フオリヤ. ヤボニカ. アナトミカ」第6卷第5號=發表)
- 其2 家兎新生兒ニ於ケル心筋纖維間挿部ノ形成ニ就テ (「フオリヤ. ヤボニカ. アナトミカ」第6卷第5號=發表)

參考論文

1. 心筋並ニ骨格筋纖維ニ及ボス「カリウム」「カルチウム」等ノ影響ニ就テ (「フオリヤ. ヤボニカ. アナトミカ」第6卷第3號=發表)
 2. 「デグタリス」作用ニ及ボス「カルチウム」ノ意義ニ關スル組織學的研究 (本誌第41年第5號=發表)
-

須之内權三君の分

主 論 文

蛋白沈降素ノ分離ニ關スル實驗的研究

- 其 1. 血清沈降素ノ分離 (岡山醫科大學歐文業府第 1 卷第 1 號ニ發表)
- 其 2. 血清沈降素ノ分離ニ就テ 附. 補體結合性抗體 (醫學中央雜誌第 511 號ニ發表)
- 其 3. 生理的食鹽水「メヂウム」ニ於ケル抗體分離ニ關スル研究 (本誌第 41 年第 8 號ニ發表)

參考論文

1. 免疫凝集素ト其分離凝集素トノ比較研究 (本誌第 450 號ニ發表)
2. 抗體ノ量的關係ヨリ見タル類屬反應ニ就キテ (本誌第 41 年第 1 號ニ發表)
3. 煮沸沈降元ノ性状並ニ煮沸免疫沈降素血清ノ生蛋白ニ對スル反應ニ就キテ

金光康生君の分

主 論 文

金屬類ヲ以テスル化學的角膜染色法

- 其 1. 第 1 回報告 整容の角膜染色法ニ關スル實驗的研究 (本誌第 41 年第 3 號ニ發表)
- 其 2. 第 2 回報告 同上 (本誌第 41 年第 4 號ニ發表)
- 其 3. 第 3 回報告 同上 (本誌第 41 年第 5 號ニ發表)
- 其 4. 第 4 回報告 同上 (日本眼科學會雜誌第 33 卷第 4 號ニ發表)

參考論文

1. 點眼セル藥物ノ眼内移行徑路ニ關スル實驗的補遺 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
2. 特發性角膜脂肪變性症知見補遺 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
3. 稀有ナル眼窩腫瘍「ペリテラザルコーム」ニ就テ (日本眼科學會雜誌第 31 卷第 5 號ニ發表)
4. 他ニ先天性畸形ヲ合併セル先天性眼異常ニ就テ (實驗眼科雜誌第 93 號ニ發表)
5. 細絲角膜炎ノ 2 例 (中央眼科醫報第 19 卷第 4 號ニ發表)

田丸要槌君の分

主 論 文

瞳孔徑ノ死後變化ニ關スル研究

- 其 1. 同上 第 1 報 (本誌第 41 年第 9 號ニ發表)
- 其 2. 同上 第 2 報 (本誌第 41 年第 10 號ニ發表)

參考論文

1. 死直後ニ於ケル人眼瞳孔徑ニ就テ (本誌第 40 年第 9 號ニ發表)
2. 人體眼球ノ重量及ビ大サニ就テ (本誌第 41 年第 3 號ニ發表)
3. 急性淋巴性白血病ニ於ケル網膜ノ變化ニ就テ (本誌第 41 年第 11 號ニ發表ノ豫定)
4. 眼瞼結膜ニ發生シタル「プラスマ」細胞腫ノ 1 例 附. 本邦眼科領域ニ於ケル「プラスマ」細胞腫ノ統計的觀察 (本年 10 月中央眼科醫報ニテ發表ノ豫定)

5. 眼瞼結膜 = 原發シタル肉腫 2 例 = 就テ (中央眼科醫報第 21 卷第 5 號 = 發表)
6. 眼瞼結膜「リムプス」= 原發シタル扁平上皮癌ノ 1 例 = 就テ (中央眼科醫報第 18 卷第 11 號 = 發表)
7. 網狀血管ノ稀有ナル異常分岐 2 例 (中央眼科醫報第 19 卷第 3 號 = 發表)
8. 星芒狀網膜炎 = 就テ (中央眼科醫報第 20 卷第 8 號 = 發表)
9. 珍ラシキ外傷性虹彩剝離症ノ 1 例 (中央眼科醫報第 19 卷第 10 號 = 發表)
10. 先天性蠟毒 = 現ハレタル興味アル眼症狀 (中央眼科醫報第 21 卷第 3 號 = 發表)
11. 交感性眼炎ノ「サルウワルサン」療法 = 就テ (藝備醫事第 361 號 = 發表)

岡 元 一 君 の 分

主 論 文

過敏症 = 關スル研究補遺 (殊ニ網狀織内皮細胞系統ノ機能トノ關係 = 就テ)

- 其 1. 主ニ臨牀症狀並ニ體溫降下 = 關スル研究 (本誌第 41 年第 3 號 = 發表)
- 其 2. 血液所見及ビ剖檢所見 = 關スル研究 (追テ本誌 = 發表ノ豫定)
- 其 3. 内分泌腺器ノ機能ヲ變化セシメタル際ニ於ケル網狀織内皮細胞系統填塞ノ過敏症ニ及ボス影響、網狀織内皮細胞系統ト沈降素トノ關係 = 就テノ研究 (追テ本誌 = 發表ノ豫定)

参 考 論 文

1. 細菌ノ荷電ト其荷電ニ及ボス血清ノ影響 = 就テ (加藤, 岡共著) (日本微生物學會雜誌第 18 卷第 11 = 發表)
2. 「ウロピリン」尿 = 就テ (本誌第 428 號 = 發表)
3. 壯丁及ビ胃「アトニー」患者ノ體格檢査成績 (須賀, 寺尾, 岡共著)
4. 「ヘパトキシシ」ガ肝臟ノ「アセトン」體生成機能ニ及ボス影響 = 就テ (小林, 岡共著) (本誌第 436 號 = 發表)

森 川 尙 君 の 分

主 論 文

光線ノ生理的作用ノ研究

- 其 1. 水草ノ瓦斯代謝ニ及ボス光線ノ影響 (本誌第 41 年第 9 號 = 發表)
- 其 2. 波長ヲ異ニスル可視光線ノ水草及ビ陸草ノ新陳代謝ニ及ボス二三ノ影響 (本誌第 41 年第 4 號 = 發表)
- 其 3. 二三植物ノ發育特ニ其新陳代謝ニ及ボス日光ノ影響ニ關スル研究 第 1 回報告 植物ノ生長ニ及ボス日光ノ影響 (本誌第 41 年第 2 號 = 發表)
- 其 4. 同上 第 2 回報告 日光ノ水分含有量, 灰分含有量及ビ全窒素量ニ及ボス影響 (本誌第 41 年第 2 號 = 發表)
- 其 5. 同上 第 3 回報告 日光ノ體內糖類(澱粉ヲ含ム)含有量ニ及ボス影響 (本誌第 41 年第 2 號 = 發表)

参考論文

水草ノ瓦斯代謝ニ及ボス種々ナル條件ノ影響

其1. 水ノ動搖、溫度及ビ炭酸瓦斯含量ノ刺戟ガ瓦斯發生ニ及ボス影響 (本誌第41年第9號ニ發表)

其2. 數種ノ化學的刺戟ガ瓦斯發生ニ及ボス影響 (本誌第41年第10號ニ發表)

◎**ボートレース** 岡山醫科大學々友會水上部主催にて本月6日午前8時半より本縣上道郡三幡港に於て第4回ボートレースを開催し「クラスレース」其他の種目を行ひ午後4時閉會せり

◎**陸上運動會** 岡山醫科大學々友會陸上競技部の主催にて本月17日午前9時より第6回陸上運動會を同學庭に於て開催し百米競走其他29種の競技をなし午後5時閉會せり尙ほ當日は同大學講堂に於て圭洋會洋畫展覽會の催しありたり

◎**解剖體大法會** 岡山醫科大學に於ては本月26日午前10時より當市小橋町國清寺に於て昨年11月乃至本年10月の間に同大學に於て解剖せる者の爲め解剖體大法會を施行せり 定期に至り一同着席するや同寺の華山海安師導師となり讀經を爲し次に上坂學長代理、學生總代横山久衛君、來賓守屋岡山市長の祭文朗讀、次に學長代理、學生總代、來賓總代及び遺族の焼香ありて式を終り別室に於て茶菓の饗應ありて正午一同退散せり

◎**奥島教授の通信** (9月18日 München 發 高橋講師宛)

前省……昨日 Berlin を出發致し München に參り候。Straub 教授は大變元氣にて昔の通りの外觀にて格別年を取られた様子もこれ無く候。本日午前中は教室を案内せられ、午後5時より茶に招かれ、夫より先生の二男が「アウト」をドライブして先生と赤松教授と4人にて約20哩程距れたる Sternberg といふ湖水の畔の「レストラン」に案内せられ一夜談話に時を移し候。往復の絶景は中々 Berlin あたりにて見られぬものにて先生の御温情に感激致し候。此度ももう一度先生の講義を一寸でも聽いて見たく存じ候も11月からでなければ始まらぬ由驚き入り候。して見ると吾々も12月には教室にかへり候へば獨逸に比すれば少しばかり長い夏休暇を持つたのと同様にて考へ様にて何とでも諦めはつく物にて候。

清水教授の先生の Wieland 教授をも訪問致し候。世界一の化學者の教室が如何に古びた荒れ果てたものであるかを視候へば研究は教室にはよらぬものと存じ候。頭さへあれば如何に穢い所でも仕事の出来るものと感じ入り候。其上大變狭く1人が約5尺幅の「ブラツツ」を有するのみに候。勿論只今は休暇中にて全部片づけあり唯古き黒き藥の斑點のあるのみが如何に多くの業績のなされしかを物語るのみに候。近來の傑作は「ロベリン」の合成にて夫は一婦人の手によつてなされたるものの由に候。これより Tübingen に向ふ考へにて候。其處には Freiburg 時代の知人が教授になり居り候。……省略

◎**田中學長の消息** 田中學校は來る11月5日頃伯林發、同月20日頃歸朝の筈なり。

◎**奥島教授の消息** 目下アメリカ巡歴中の同氏は11月下旬迄に歸朝の豫定なり。因に外遊中母堂の逝去あり。甚だ同情に堪へず。